

權利金額ノ果シテ幾干アルヘキヤ之ヲ知了スルヲ得サルモノナリ
 第三獨逸國ハ此ノ如ク自己直接ノ權利金ヲ有スルノミナラズ亦諸種ノ債券所
 有者トシテ英國ヨリ夥多ノ金員ヲ取去リ得タリ即チ當時佛國カ獨逸國ニ仕拂
 へル債金ノ多分ハ英國ニ對スル貸方證書類ヨリ成リタルヲ以テ獨逸國ハ此等
 證書ノ滿期スルニ從ヒテ續々英國ヨリシテ正金仕拂ヲ要受セリ而シテ英國カ
 此等仕拂ヲ爲スニハ諸他銀行ハ到底自家所藏ノ金員ヲ以テ之ニ充用スルヲ得
 サルカ故ニ各自英國銀行ニ對スル權利金ヲ引出シテ之ニ應セサルヲ得ナリキ
 是レ英國銀行ノ準備金ヲシテ大ニ減少ト來セル一大勢力タリシニモシテ
 是レハ英國銀行カ諸他銀行ニ對シ有スル所ノ義務金ノ一大部分ハ債券仕拂ニ
 伴ヒテ獨逸國ニ向ヒ流出セルモノナリ而シテ此ノ種仕拂ニ對スル金額ノ如キ
 亦豫メ之ヲ所定シ得サルヲ以テ英國銀行ニ取リテハ時ニ大ニ困難ノ要因タ
 リシヤ蓋シ疑フ要セザルナリ
 是ニ由ラテ之ヲ觀レハ英國銀行ニ預ケ入レタル諸他銀行ノ權利金ハ一見甚ク
 確實ニシテ且ツ安全不動ノモノハ如キモ其ノ實態ヲ察シ其ノ關係ヲ慮ルトキ

ハ却テ極テ不安心ナルモノニシテ英國銀行ニ於テハ此ノ種義務金ニ對シテハ
 常ニ綿密仔細ナル用心ヲ施シ以テ之ニ對應スル準備金ヲ保有スルニアラサレ
 ハ時ニ不測ノ災害ヲ蒙ルニ至ルヘキナリ是ヲ以テ此ノ點ヨリシテ之ヲ考スレ
 ハ英國銀行ハ成ルヘク多分ノ準備金ヲ貯藏シテ成ルヘク信用ヲ堅固ナラシム
 ルニ利ナルモノナリ
 然ルニ茲ニ論者アリ曰ク英國銀行ハ決シテ此ノ種諸他銀行ヨリノ豫メ金ヲ運
 用セザルヲ要スト此ノ論旨タル固ヨリ學理ヲ主トシ書ヲ講スル者ニ取テ及示
 セザル所ナリト雖モ面カモロムハルト街中實際家トシテ有名ナル人々ノ唱道
 スル所ナリ然リト雖モ此ノ説タル余輩ハ決シテ之ニ服スルヲ得サルナリ何ト
 ナレハ斯ノ如キ強硬固頑ナル規則ハ決シテ搖動不定ノ金融市場ニ於テ實際ニ
 遵奉スルヲ得サルモノニシテ若シ強テ之ヲ實行セントセハ余輩ハ其ノ時ニ非
 常ノ危險ヲ生スルニ足ルモノナリ例ヘハ彼ノ恐慌時ニ於テハ余輩既ニ前數章
 中ニ述ヘタルカ如キ英國ノ中央銀行タル英國銀行ハ成ルヘク活潑ニシテ而カ
 無謀ナラサル貸附ヲ爲シ以テ金融事情ノ困難ヲ濟治シ信用取引ノ安固ヲ謀

之ヲヘカヲ若シ英蘭銀行ニシテ右説者ノ論旨ヲ固奉シテ恐慌時ニ於テ全
 少此ノ種義務金ヲ利用運轉セシラシメシカ益金融市場ノ緊張ヲ強クシ恐慌ノ
 勢力ヲ増大シテ非常ノ惡果ヲ致スヘキハ毫モ疑テ要セザリ其ノ他利益配
 當ノ期節ニ方リテモ亦右ノ如キ屈伸不自由ナル規定ハ到底守奉スル事
 アラサルナリ何トナレハ此ノ如キ時期ニハ尋常時ニ比スレバ市場ニ於テ割合
 ニ多分ノ通貨ヲ要スヘキニ若シ諸他銀行ノ權利金ニ屬スルモノヲ貸出サレド
 セバ市場爲ニ融通ヲ阻礙セラレ金利爲ニ騰貴セサルヲ得ザルヘク以此ナリ
 諸他銀行所屬ノ權利金ノ貸出ヲ全排スルヲ不得策ナル正ニ斯ノ如キ然リテ雖
 モ今更キテ斯ノ如キ説ヲ起ル所以ヲ考フレハ其ノ間決シ理由ナキ事アラサル
 ナ見ル之ヲ要スルニ諸他銀行ニ對スル義務金即チ預リ金ヲ全然貸出スヘカヲ
 スト云フハ此ノ種義務金ニ就キテハ英蘭銀行ハ常々最モ綿密ナル注意ヲ施シ
 最モ仔細ナル配慮ヲ要スルモノナリトノ意ヲ過大ニ説キ爲セシモノナリ外ナリ
 ナルヘシ是レ實ニ余輩ガ此種金額ニ對シテハ中央銀行ハ十分謹慎ノ上ニ謹慎
 ナ加ヘ以テ之ニ應ズルノ道ヲ備テルニアラサレハ時ニ不測ノ災害ヲ生ジ自他

ナ最モ非常ノ困難ニ陥ラシム可キ説ト意ヲ同セテ其ノ度ヲ過大ナラ
 シメテモ以テ固シク備固ノ難ヲ示シ雖モ彼ノ此ノ種義務金ヲ以テ大
 安全ニ爲テ引出シ受テ振動ヲ減スルノ度少キモノナリト思惟スル論旨ニ比ス
 レバ却テ逆ニ取ルルニキ厥テハ其ノ度少キモノナリト思惟スル論旨ニ比ス
 以上述ヘ來レル所ヲ斷味セテ讀者ガ彼ノ銀行準備金額ニ關スル舊思想即チ銀
 行ノ時下場合ニ論ナク常ニ其ノ種義務金額ニ對スルニ若シハ附三附近ニ
 一定比例額ヲ準備スレバ是レ其ノ主義ノ今日於テハ決シテ續カズナリ用
 不ヘキモノアラサルコトヲ認不モナリト銀行ニ對スル仕拂要求高ハ時
 ノ事情ニ由リ義務金ノ性質ニ依リテ毎々振動シテ定ラサルモノナリ仕拂要求
 高ニシテ振動定ラサルモノナル以上ノ之ニ應シ之ニ對スルコト必要ナリ
 備金額ニ決シテ單純ナル計算ニ依リテ一定不動ノ比例ヲ保持スルヲ以テ事足
 ナキニアラサルハ未ダ必キモノ智者ガ俟テテ之ヲ知ルヲ要セザル事又事情
 拘テ性質ニ關セズ以テ一定比例ノ準備金ヲ所蓄スルニ於テハ時ニ危險ナル
 過少額ヲ以テ又時ニ必要ナル過大額ナルモノナリ故ノ勢力時ニ大小ノ差

金融論追加

乙之防之應スル在勢力亦何カ一定ナルヲカヤスルハ代價ニ大小ノ差
 準備金額ヲ定ムル時正場合トシ由リテ須ク善ク準備スルベシト云フ
 固ヨリ之ノ實際ニ施スル難キモ知悉即彼ノ銀行以常ニ三分ノ一若クハ
 他ノ一定比例ヲ保持スルニテ法規ハ簡單ニシテ銀行者ナリ公衆力ヲ其
 高據ルニ善ク容易カルモ大抵然見ト雖モ據ルニ易クモ未タ必ス善果
 ナ至テ末期スルニ至ルナリ世間事物ノ關係ノ錯雜ナル往々モ其準備
 難キ法規ニ依ルニテサレバ到底十全ノ効果ヲ收ムルニ足ラズ然レモ
 様々藥劑ヲ投シテ善般ノ患疾ヲ療治セシムル或ハ患者ニ至ラズモ
 ノ不幸アテテノ一定比例ノ準備金額ヲ備ヘテ以テ種々不同ノ義務ニ
 此五輩ニ危カラズヤ一般ノ銀行ニ於テ既ニ然リ況モ一國金融ノ樞
 信用取引ノ中衝ニ當ル所ノ中央銀行ノ準備金額ニ於テヤ
 又一ノ舊慣法出右ノ同レ今日ハ於テ要テサレバカラサレバ何レヤ中
 央銀行カ一般市場ノ金利ヲ導回シテ自家利息ノ歩合異降スルモ是夫
 レ中央銀行準備金ノ時ニ急需シテ減少ヲ來スルハ大抵此レト云フ事
 三十四

如キ需要ハ全リ時ニ市場ノ金利ニ影響ヲ及ボスルハ是レアリ而シテ市場ノ金
 利ハ主トシテ諸他銀行及手形仲買人ノ手許ニ存在スル資金ノ多少ト確實善
 良ナル手形及取引自善キ擔保品等ノ多少ト由リテ左右セラル、モノニ
 中央銀行ヨリ流出スル金塊ノ流出ハ右金利ニ影響ヲ及ボサハルコト却テ多シトス
 何レハ此ノ若シ中央銀行ヨリテ毫モ減意スルコトナレバ儼然請求ニ應ジテ
 其ノ金塊ノ流出セシムル間若シ中央銀行ニ於テ内實憂慮ナルモ俾觀上漫平
 流出ニ任スルノ相アズトモ世間ニ於テ何時カリトモ金塊ヲ引出テ得ルナ
 信スルカ故ニ市場ノ金利ハ爲ニ別ニ影響ヲ蒙ラスモテ能ク依然タルを得
 故ハナリ是ヲ以テ市場ノ金利ニ準同シテ中央銀行カ自家ノ利息歩合ヲ降ス
 ルハ毫モ自ラ守リ他ヲ警スルノ効果ナキモノナリ
 是ニ由リテ之ヲ觀シ中央銀行カ其ノ準備金ノ額ヲ所定ノ十全ノ効用ヲ
 シムルニハ從來慣用ノ漫然タル主義ヲ以テ足レリトセス宜シク常ニ外ハ市場
 ノ景況ヲ察シ信用ノ有様ヲ考ヘ内ニ自ラ其ノ義務金額ニ對スル權利金額ヲ割
 合テ勘入能ク右兩性金額ノ性質ヲ慮テ以テ其ノ準備金額ヲ伸縮シテ十全ノ保
 三十五

持力ヲ有セシメサルヘカラス徒ラニ舊套ヲ頑守シ古習ヲ盲襲スルカ如キハ決
シテ此ノ活動シテ止マサル金融市場ニ對シ能ク其ノ整理ノ任ヲ盡ヌヲ得サル
ナリ

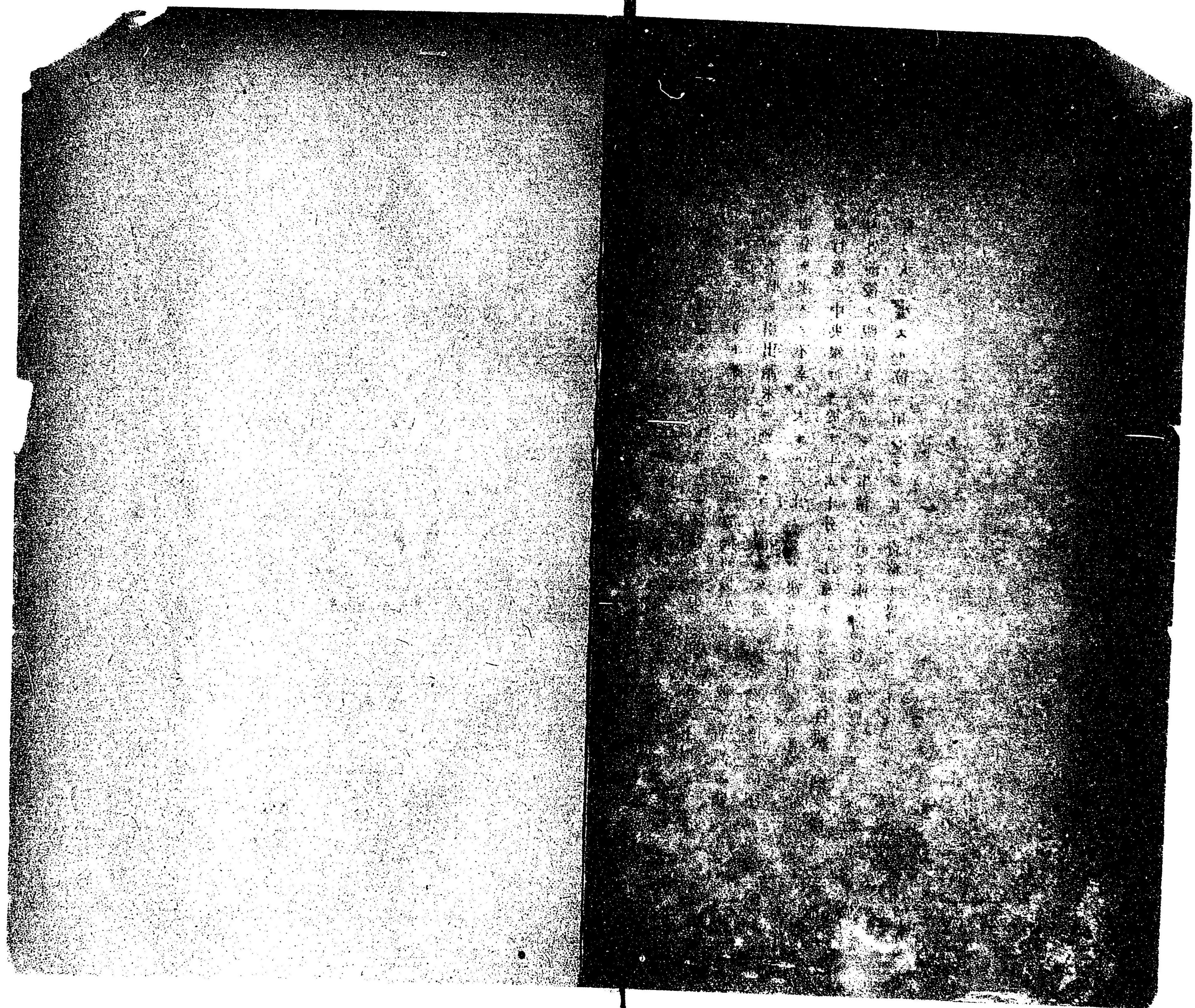
果シテ然ラハ中央銀行ノ準備金ハ如何ナル標準ニ據リ如何ナル金額ヲ保有ス
ヘキヤ余輩ハ時ト場合トニ論ナク一般一定ノ比例ヲ設クルヲ得サルヲ信スル
者ニシテ能ク義務金ト權利金トノ性質多少ヲ勘合シ審ニ市場ノ動靜ヲ察知シ
以テ其ノ金額ノ大小ヲ左右スルノ適當ナルヲ疑ハス然リ而シテ斯ノ如ク各種
事情ヲ考査斟酌シテ其ノ準備金額ヲ定ムルカ如キハ彼ノ最初ヨリ一定不動ノ
比例準備金主義ニ據リテ之ヲ所定スルニ比スレハ固ヨリ非常ニ困難ナルベシ
ト雖モ此ノ複雜多事ニ社會ニ在リテ變搖甚キ金融市場ニ對應スルニハ斯ノ
如キ配慮困難ハ必スヤ期スヘキモノナル徒ラニ易キヲ欲スルハ是レ却テ實際
ニ難キヲ致スノ作因タルモノナリ思ハサルヘカラス

終ニ臨ミ一言スレハ彼ノ俗諺ニ大ハ小ヲ兼ヌト云ウカ如ク準備金額ハ小ニ失
セシヨリハ寧ロ大ニ失スル位ニ備ヘ置クヲ要ス若シ大ニ失スルトキハ割合ニ

不必要ノ資金ヲ死藏シテ活動運資ヲ小ニシ市場取引ノ幾分縮少スルト同時ニ
銀行自家ノ収益ヲシテ少カラシムル傾アリ是レ銀行營業上固ヨリ希フヘキモ
ノニアラス然リト雖トモ若シ此ノ消極的損失ヲ以テ彼ノ準備金額ノ小ナルカ
タメニ不時ノ引出請求ニ應スルコト能ハス隨テ自家ノ信用ヲ破墜シ他人ノ迷
惑損毫ヲ來スノ不幸ノ大ナルニ比スレハ決シテ同日ノ談ニアラサレハナリ是
レ銀行殊ニ中央銀行ニ於テ平素十分ノ注意ヲ施シ自家目前ノ利ニ誘ハレシ能
ク内外前後ノ關係ヲ察諒シテ事情ノ許ス限リ場合ニ適應スルヲメ稍シ其ノ準備
金額ノ大ニ失スル位ニ用心シテ其ノ責務ヲ盡サンコトヲ忘ルヘカラスナリ

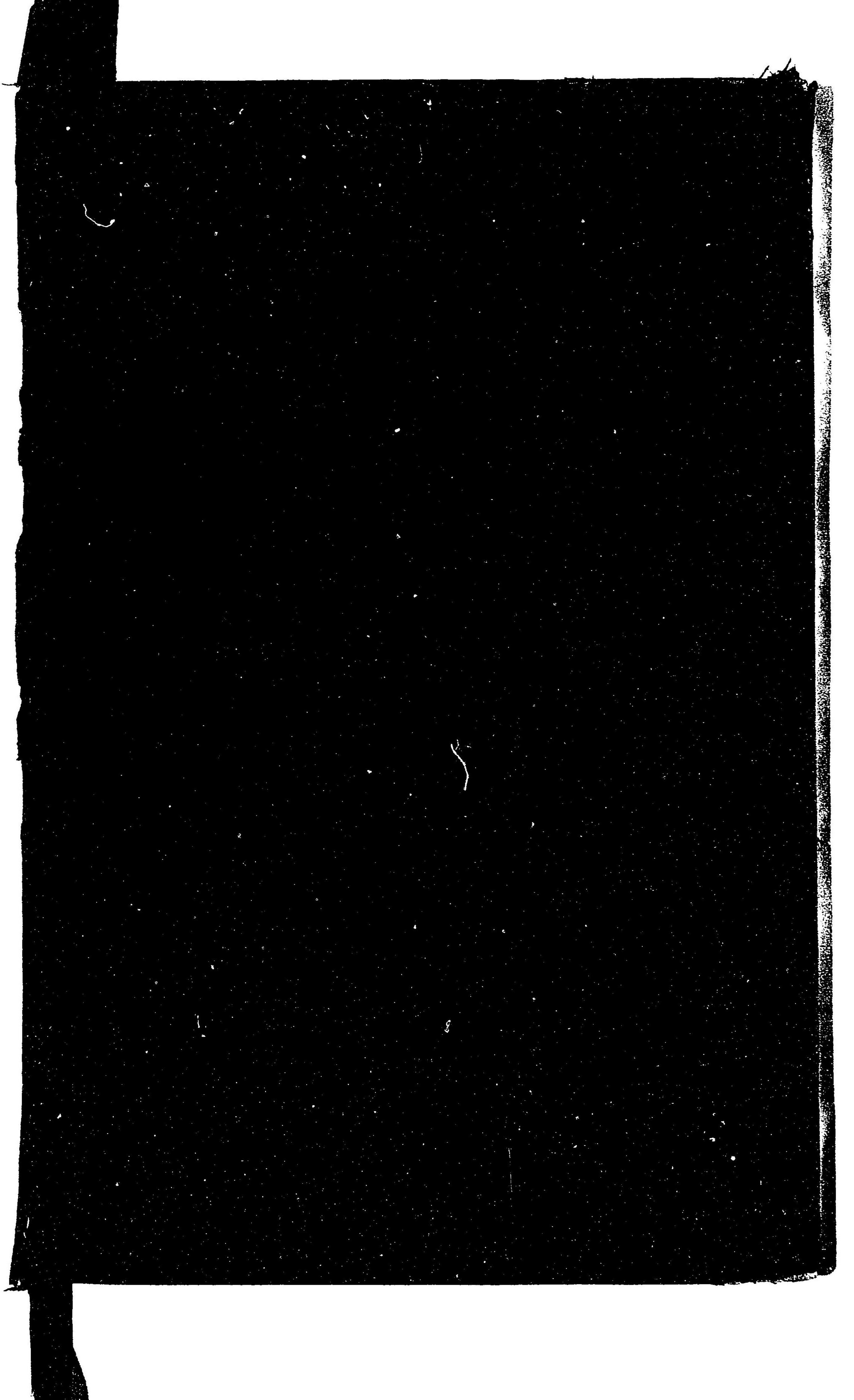
金融論追加終

金融論追加



中華民國二十六年
五月二十日
出版

14
619



14
619

041079-000-0

14-619

金融論, 金融論追加

浜田 健次郎 / 述

M24

BDF-0237



